



WWF

Palm
Oil

JPN

2017

持続可能なパーム油の 調達とRSPO

第2版

表紙写真：© James Morgan / WWF-International

発行年：2017年7月

著作・編集・発行：公益財団法人世界自然保護基金ジャパン

本刊行物の一部又は全部の複製には題名を記載するとともに、
上記発刊者を著作権所有者として明記すること。

©文章2017 WWF

ALL rights reserved

WWFは、スイスに本部を持つ、民間の環境保全団体です。
世界の500万人を超えるサポーターに支えられて、100カ国
以上で活動を展開しています。生物の多様性を守ること、再生
可能な自然資源の利用を持続可能な形に変えていくこと、環
境汚染や過剰な消費を減らすことを3つの柱とし、人と自然が
調和して生きられる未来の実現をめざしています。

目次

はじめに	4
------	---

I パーム油の何が問題か	6
1. パーム油とは	6
2. パーム油生産に伴う諸問題	8
3. パーム油はボイコットすべきか	10

II 持続可能なパーム油へ	11
1. RSPOの成り立ち	11
2. ビジョンと使命	12
3. ガバナンス	12
4. 原則と基準(P&C)	13
5. 会員制度	16

III RSPO 認証システムの概要	17
1. 生産と流通、2つの認証	17
2. 4つのサプライチェーンモデル	18
3. サプライチェーンモデルの比較	20

IV 持続可能な世界を目指して	21
1. 世界的な動き	21
2. 企業がRSPOに参加する意義	23

はじめに

パーム油のためのアブラヤシ農園開発による熱帯林破壊の問題が叫ばれるようになってから、すでに20年近くが過ぎました。近年では、環境への影響だけではなく、マレーシアやインドネシアなど生産国の地域住民や農園労働者への深刻な人権労働問題も指摘されています。パーム油に対する需要の伸びはとどまることを知らず、解決すべき環境・社会課題も多く存在する中で、私たちは何をすべきでしょうか。

残念ながら日本企業の持続可能な調達への取組は、世界的に見ても遅れていると言わざるを得ません。それでもここ数年で、トイレットリー企業・流通小売企業を中心にパーム油の調達への取り組みが少しずつ広がってきているのも事実です。2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックも視野に、これから更に拡大していくことが予想されます。

250万 ha

認証農園面積
(2017年4月末時点)

本冊子は、パーム油をめぐる問題と、持続可能なパーム油の生産・利用を目指す国際的な認証制度である「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」に関する基本的な情報を整理したものです。日本企業が持続可能なパーム油の調達に向けた取り組みを検討する際に、参考として活用いただくことを期待します。

世界に広がる認証農園





© Jürgen Freund / WWF

I パーム油の何が問題か

1. パーム油とは



1) アブラヤシ

パーム油は西アフリカ原産のアブラヤシの果実から得られる植物油です。カップ麺、お菓子、パンなどの加工食品や、化粧品・パーソナルケア用品、洗剤、医薬品などの消費生活用製品からバイオ燃料に至るまで幅広く利用されています。パーム油といっても厳密には、果肉の部分からはパーム原油、種子部分からはパーム核油が得られ、含まれる成分の違いから用途が異なります。本冊子では特に断らない限り、「パーム油」にはパーム原油と核油を含むものとします。

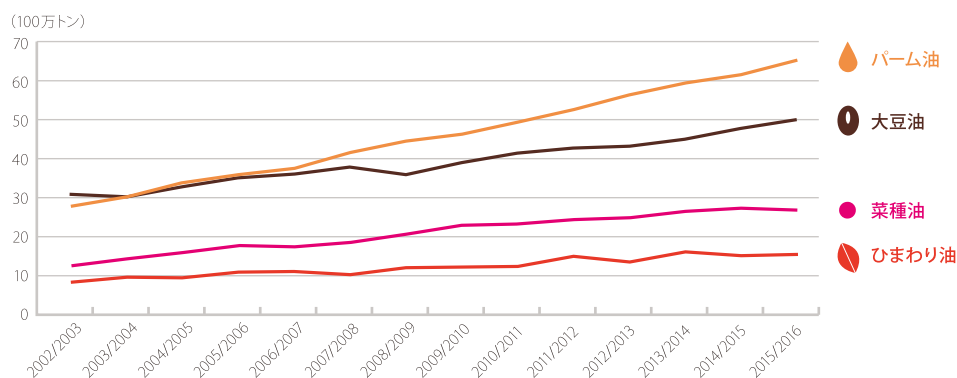
パーム油は多用途に使われるだけでなく、単位面積当たりの収量が他の植物油脂に比べて非常に高く、またより安価です。そのため、1990年代から急速に需要が伸び、今では大豆を抜いて世界で生産される植物油脂のトップとなっています。

6,476万
トン

(2016/17)
パーム油
生産量推計

© Oil World Annual 2017

世界の油脂別生産量 © RSPO



2) 生産地

パーム油はどこでも生産できるものではありません。アブラヤシには十分な日照と高温湿潤な気候が必要なため、農園の適地は赤道を挟む湿潤な熱帯地域に限られます。生産国としては、インドネシアとマレーシアが突出しており、両国だけで世界のパーム油生産量の85%近くを占めるほどです。しかし近年、その他の東南アジア、アフリカ、中南米の諸国においても、アブラヤシ農園の開発意欲が高まっています。

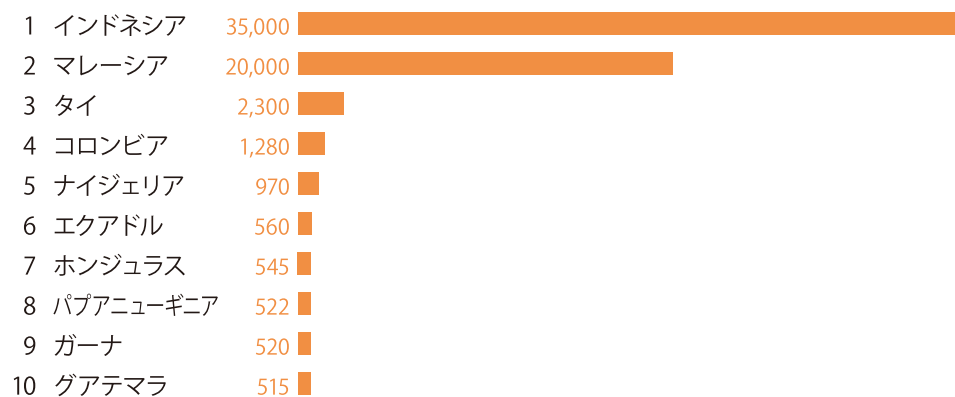


3) 需要

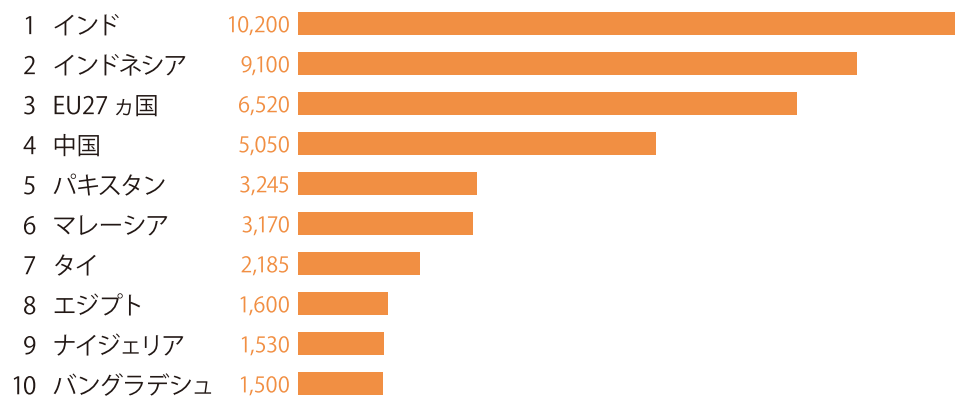
パーム油の主な消費国はインド、インドネシア、EU27 カ国、中国です。日本は63.5万トン(2016年)で世界第19位ですが、年々微増傾向にあります。今後、世界の人口増加、アジア諸国の所得水準の上昇などを考えると、パーム油に対する需要がさらに伸び続けることは避けられません。

85%
インドネシアと
マレーシアが占める
パーム油
生産量割合

🔴 パーム油生産量上位10 カ国(1,000トン)



🔴 パーム油国内消費量上位10 カ国(1,000トン)



© Index Mundi USDA 2016

2. パーム油生産に伴う諸問題

急速なアブラヤシ農園の拡大と不適切な農園経営などにより、環境や地域社会に次のような問題が生じています。



1) 熱帯林、泥炭湿地林などの伐採

保護価値の高い自然林や泥炭湿地林などが伐採され、完全に失われる。

2) 森林火災・泥炭火災

農園造成を目的として森林伐採の前後に「火入れ」をすることは禁止されている。しかし実際は違反が横行し、乾季になると泥炭にまで延焼するため多量の温室効果ガスの排出と共に、煙害(ヘイズ)が国際問題化している。

3) 生物多様性の消失

東南アジアの熱帯林は、絶滅の危機に瀕しているオランウータン、トラ、アジアゾウなどの大型哺乳類を筆頭に貴重な野生動植物の宝庫である。熱帯林を農園に転換することで、生物多様性に致命的な影響を与える。

4) 気候変動

熱帯林や泥炭湿地林の伐採、火入れによる泥炭火災など直接的な影響に加え、搾油工場においても排水由来のメタンガスなど様々な段階で温室効果ガスを大量に排出する。

5) 土地をめぐる先住民などとの紛争

代々土地を利用している先住民や地域住民の同意を得ず一方的に開発を進め、生活の糧である森や土地を奪ってしまう例が多く報告されている。

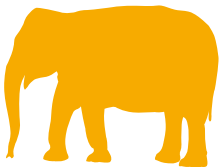
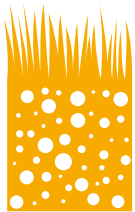
6) 土壌侵食・汚染など

熱帯林伐採により土壌侵食が進み、表土の流失を招く。また、農園で使用する有害性の強い農薬や化学肥料などによる周辺の汚染、搾油工場からの有機物に富む排水による河川の富栄養化も問題となっている。

7) 労働と安全問題

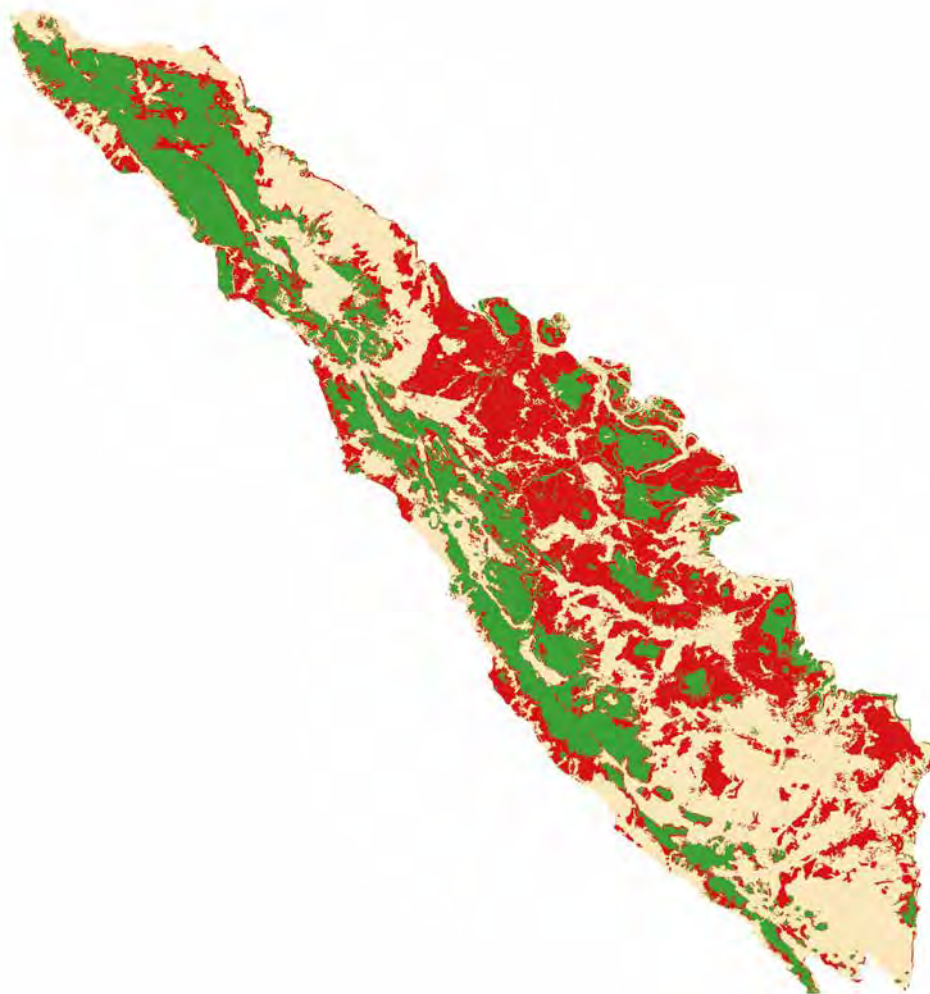
農園においては健康や労働安全への配慮が乏しい劣悪な労働環境や低賃金、移民労働者の不当な扱い、児童労働など様々な社会的公正を欠く労使問題が指摘されている。

これらは、生産国の法規制が適切に整備され、遵守されていれば、大きな問題にはなりません。しかし、実際には、原生林の伐採や火入れ禁止、希少野生生物の保護などの規制はあっても、取り締まり体制が十分ではなく、違反は後を絶ちません。また、事業者と管理当局との癒着による不適切な開発もたびたび指摘されています。国が直接管理する国立公園でさえ、面積の半分近くがアブラヤシ農園に転換された例もあり、法規制によるアプローチだけでは対処できないのが実情です。





インドネシア・スマトラ島における森林破壊



© WWF インドネシア

56%↓
2,490万
↓ ha
(1985)
1,110万
ha
(2016)
森林面積

自然林が失われた場所

3. パーム油はボイコットすべきか

**問題は
パーム油自体ではなく
栽培方法に
あります**

環境・社会課題を多く抱えているパーム油に対する批判から、「パーム油を止めて他の植物油脂に切り替えるべき」という主張がまだ根強く残っています。現にパーム油製品のボイコットキャンペーンやパームフリー（パーム油を含まない）製品の販売も行われています。このような行動は単純で分かりやすいのですが、問題解決にはほとんど寄与しないどころか、時にはマイナスとなることさえあります。

「基幹産業としてのパーム油」

パーム油生産国のほとんどは途上国であり、今やそれらの国の社会・経済発展の主要な柱の一つとなっています。パーム油産業に関わる何百万人もの雇用をどうするのでしょうか。また、全ての生産者が問題を引き起こしている訳ではありません。ボイコットは法規制を守り地域社会にも受け入れられている生産者も区別することなく、一律に不利益を与えることとなります。

5-8倍
他の植物油脂と
比較した際の
パーム油の
単位面積あたりの
収穫量

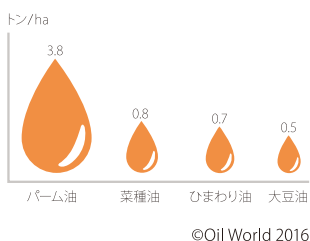
「単位収量は大豆の7倍以上」

世界で利用される植物油脂の中で最大の生産量となったパーム油を、他の植物油脂の増産によって代替することは、そのために新たに必要となる耕作面積などを考えれば非現実的です。パーム油は他の植物油脂と比べ単位面積当たり5～8倍の油が収穫できるため、今後さらに世界の植物油脂需要が増大することも考えれば議論の余地はありません。

「非」持続可能性へのインセンティブ」

もし一定の企業が他の植物油脂に代替する場合、持続可能性に関心がない国や企業だけがパーム油を使い続けることとなります。そうすると、生産者には持続可能な生産に力を入れるインセンティブがなくなり、環境破壊をしても気にしない企業だけを相手に非持続可能な生産が拡大していくこととなります。

1ha当たりの収量



「代替油にも問題が？」

パーム油の需要を抑制する目的で、部分的に代替したとしても、代替油脂となる大豆油や菜種油などの栽培がより持続可能である保証はありません。現に南米では大豆プランテーション開発において同様の問題を抱えており、持続可能な大豆の認証制度(RTRS)が設立されています。

パーム油自体に問題があるわけではありません。パーム油の栽培方法に問題があるのです。今後もパーム油を使い続けるために、持続可能なパーム油の調達がいま必要です。

II 持続可能なパーム油へ

1. RSPOの成り立ち

RSPOは、正式名称を「持続可能なパーム油のための円卓会議(Roundtable on Sustainable Palm Oil)」といい、パーム油に関わる7つのステークホルダーによって構成される非営利団体です。



2004
年

持続可能な
パーム油の
ための
円卓会議設立

RSPOは2002年に、WWFの呼びかけに応じたパーム油産業に関わるAarhus United UK Ltd(英油脂企業)、Migros(スイス小売)、マレーシアパーム油協会、ユニリーバが一堂に会し、持続可能なパーム油に関する議論を始めたことから発展しました。その後広く参加メンバーを募りながら協議を重ね、2004年4月に「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」として設立されました。本部はマレーシア、クアラルンプールにあります。

2. ビジョンと使命

持続可能な パーム油の 主流化

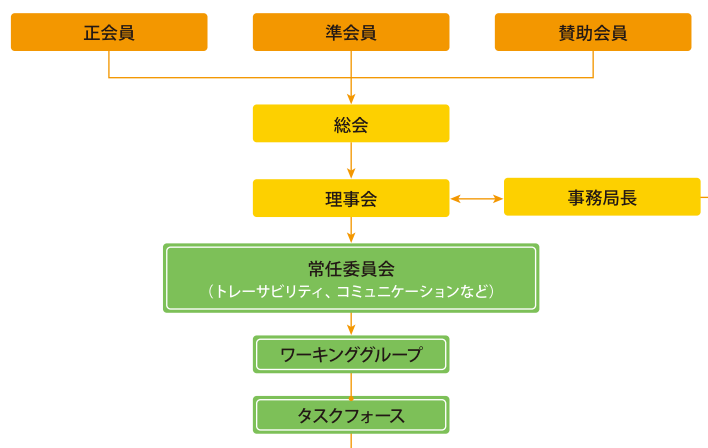
RSPOの到達目標とその実現のためにどのように取組むかを簡潔に示したのが、ビジョンと使命です。

ビジョン RSPOは持続可能なパーム油が標準となるよう市場を変革する

- 使命**
- 持続可能なパーム油製品の生産・購買・融資・利用を促進する
 - 持続可能なパームのサプライチェーン全体にわたり信頼される国際的標準の策定、実施、検証、保証、および定期的見直しを行う
 - 市場での持続可能なパーム油の取引による経済・環境・社会への影響を見守り、評価する
 - 政府、消費者を含むサプライチェーンを通じた全てのステークホルダーと積極的に関与する

3. ガバナンス

RSPOの運営は7つのステークホルダーからそれぞれ総会(General Assembly)で選出された16名の理事により構成される理事会(Board of Governors)が担い、理事の任期は2年です。その下に4つの常任委員会とテーマごとのワーキンググループ、タスクフォースが置かれ、重要な決定は正会員が集う総会において採択されます。



© RSPO

4. 原則と基準 (P&C)

RSPOが考える持続可能なパーム油の生産には、関連する法制度に違反していないだけでなく、経済的に持続可能であること、環境的に適切かつ社会的に有益であることが求められます。それらの要件を具体的に示したのが、「RSPOの原則と基準(The RSPO Principles and Criteria, P&C)」です。8つの原則の下に43項目の基準が定められ、個々の基準ごとに、具体的指標とガイダンスが示されています。例えば、新規開発において原生林はもちろんのこと、二次林であっても、自然保護上または地域住民の生活に重要な場所であれば開発は認められません。原則と基準の内容は、状況の変化に対応できるように、5年おきに見直しが行われます。

アブラヤシ生産における8原則



1 透明性へのコミットメント



2 適用法令と規則の遵守



3 長期的な経済・財政的
実行可能性へのコミットメント



4 生産者および搾油工場による
適切なベストプラクティスの活用



5 環境への責任と自然資源および
生物多様性の保全



6 生産者および搾油工場により影響を受ける
従業員や個人、地域社会への責任ある対応



7 責任ある新規農園開発



8 主要な活動分野における
継続的な改善へのコミットメント

8
原則
43
項目
RSPO
の原則と基準

© RSPO





5. 会員制度



RSPOはビジョンと使命に賛同する団体、個人からなる会員により支えられています。会員にはパーム油との関わりの度合いにより3つの区分があります。会員区分により年会費や権利・義務が異なりますので、自社の状況を確認した上で選択してください。

会員区分	正会員 Ordinary Member	準会員 Supply Chain Associate Member	賛助会員 Affiliate Member
対象者	パーム油のサプライチェーンにおけるビジネスに関わる組織 (アブラヤシ生産者、製油業・商社、メーカー、小売業、銀行・投資家、環境NGO、社会NGO)	パーム油のサプライチェーンにおけるビジネスに関わるが、パーム油/核油/パーム油製品の取扱量が年間500トン以下の組織	パーム油のサプライチェーンに直接関わりを持たないが、RSPOの目的と活動に賛同する組織または個人
年会費	2,000€ ただし、小規模生産者グループ責任者 1,000-1999ha: 1,000€、 1,000ha未満: 250€、 小規模農家500ha未満: 500€	100€	250€
権利と義務	<ul style="list-style-type: none"> ・総会における投票権 ・RSPOの全ての情報へのアクセス権 ・理事会への立候補権 ・総会及び作業部会のあらゆる会合への参加が可能 ・年次報告書(ACOP)の提出義務 	<ul style="list-style-type: none"> ・総会のあらゆる会合への出席と参加が可能だが、投票権は持たない ・限られた範囲の情報アクセス権 	<ul style="list-style-type: none"> ・総会のあらゆる会合への出席と参加が可能だが、投票権は持たない ・限られた範囲の情報アクセス権 ・年次報告書(ACOP)の提出義務

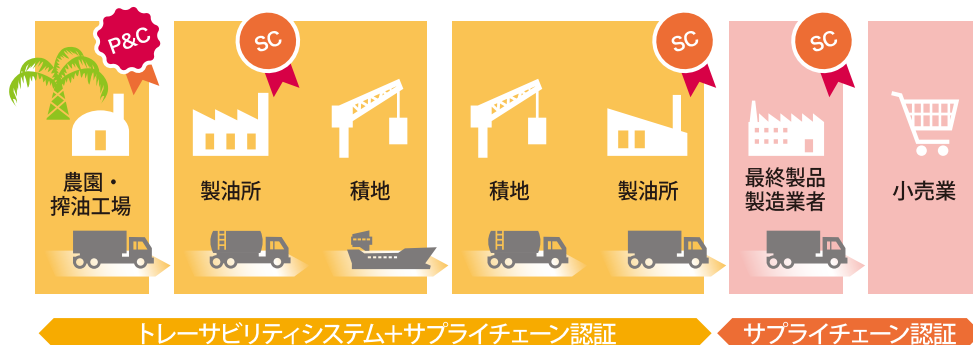
III RSPO 認証システムの概要

1. 生産と流通、2つの認証

アブラヤシ農園から始まり、最終製品ができるまでの各工程を認証することにより、全工程にわたる管理の連鎖(chain of custody)がつながり、最終製品中のパーム油の追跡が可能となります。RSPOでは各工程の認証制度として、生産段階で「原則と基準(P&C)」に則って持続可能な生産がおこなわれていることの認証(P&C認証)と、認証パーム油がサプライチェーンの全段階を通じ間違いなく受け渡されるシステムが確立されていることの認証(SC認証)という、2つの制度を設けています。

いずれもRSPOは直接、審査・認証業務は行わず、第三者である国際認定サービス(ASI、認証機関を認定する組織)認定の認証機関が実施します。審査結果はRSPO事務局に送られ、その要約はホームページ上で公開され30日のパブリックコメントにかけられます。認証の有効期間は5年ですが、毎年遵守状況がチェックされ、場合によっては期間内であっても取り消されることもあります。

パーム油のサプライチェーン



© RSPO

1) 生産段階での認証(P&C認証)

生産現場での基本的認証単位は、搾油工場とそこに果房を供給する全ての直営農園、契約農園が含まれます。審査は認証機関が「8つの原則と43の基準」を中心に最低3人の審査員によって、2回にわたり実施されます。最初の審査では基準とのギャップが特定され、2回目にそれらの改善状況を中心にチェックされます。

2) サプライチェーン認証(SC認証)

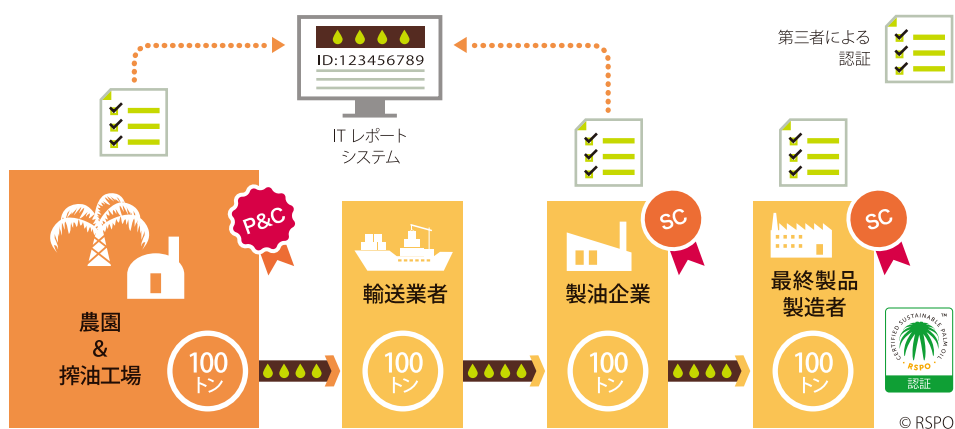
サプライチェーン認証(Supply Chain Certification System、SC)とは、製造・加工・流通過程における認証制度です。認証パーム油(Certified Palm Oil)を使用して作られた製品を取り扱う各工程でSC認証の要求事項を満たしていることを認証する制度です。最終製品が出来上がるまでの各工程でSC認証製品の所有権を持つ組織は、認証取得の対象となります。

2. 4つのサプライチェーンモデル

パーム油の複雑なサプライチェーンを反映して、3つの認証モデルと1つのクレジットモデルがあります。

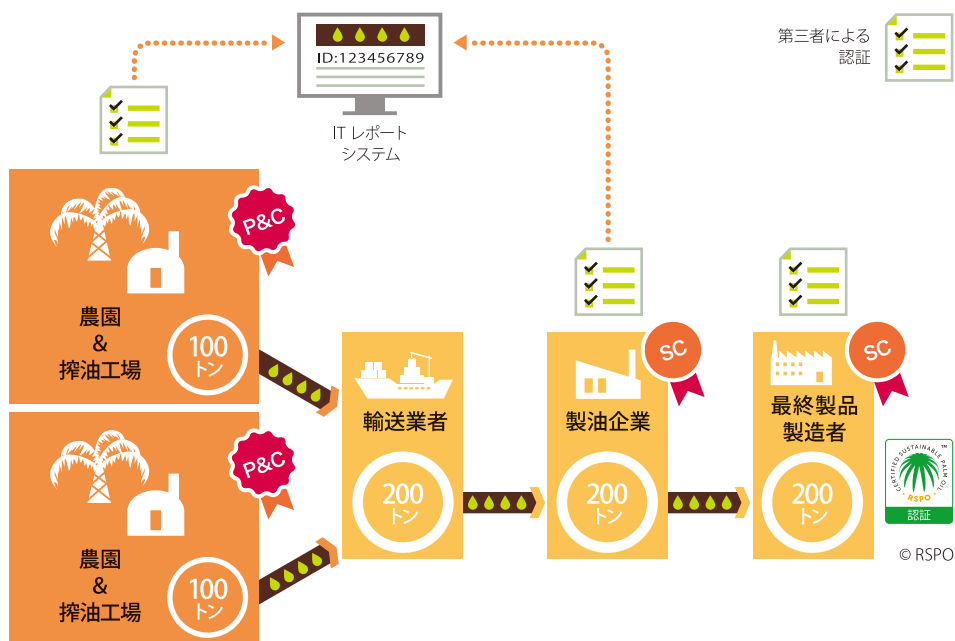
1) アイデンティティ・プリザーブド (Identity Preserved, IP)

認証された単独の農園から最終製品製造者に至るまで完全に他のパーム油と隔離され、受け渡される認証モデルです。そのため認証油を生産した農園を特定することができます。



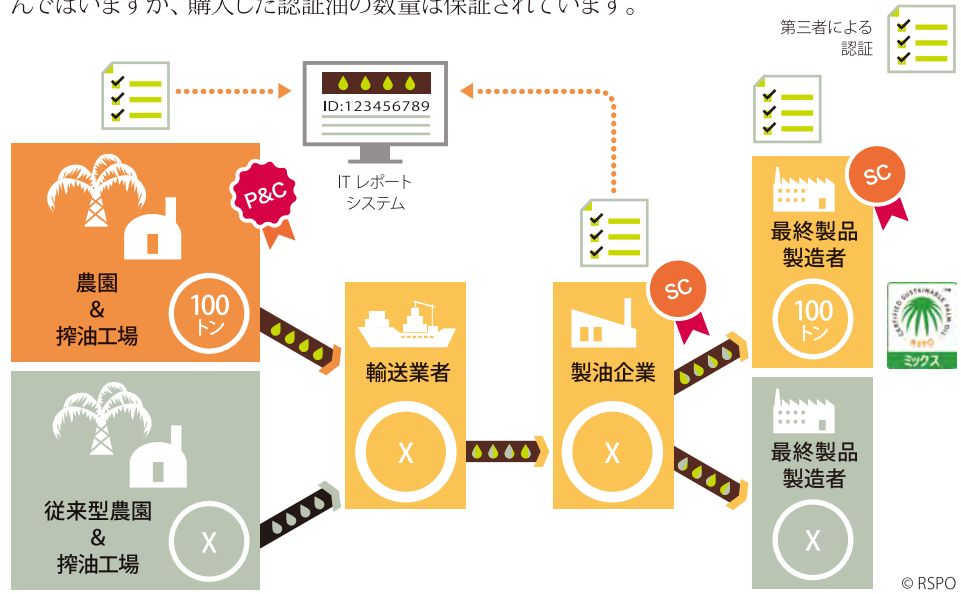
2) セグレーション (Segregation, SG)

複数の認証農園から得られた認証油からなり、非認証油とは混ぜ合わされることなく、認証油が最終製品製造者まで受け渡される認証モデルです。生産農園を1つに特定できませんが、認証農園から生産された原料のみであることが保証されます。



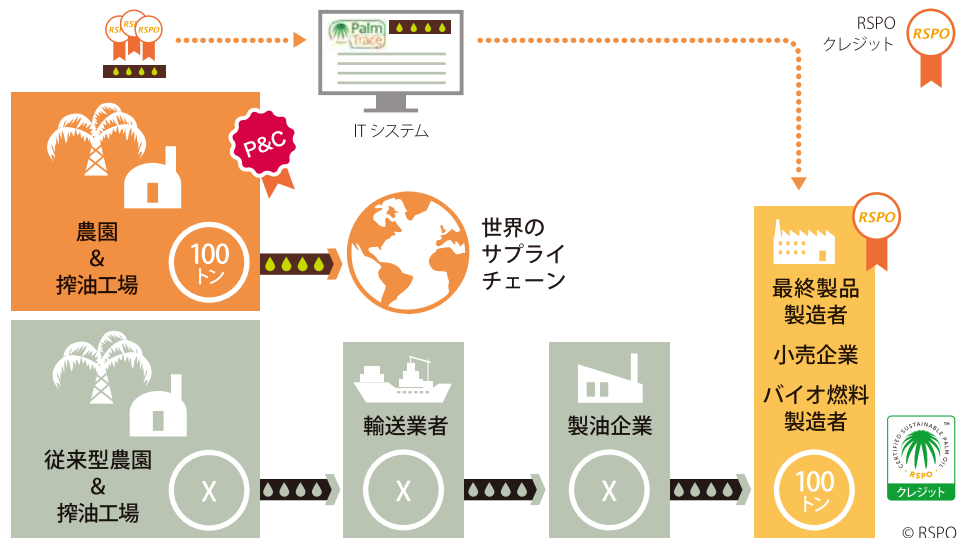
3) マスバランス (Mass Balance, MB)

流通過程で、認証油と非認証油が混合される認証モデルです。物理的には非認証油も含んではいますが、購入した認証油の数量は保証されています。



4) ブック・アンド・クレーム (Book & Claim, B&C)

物理的な認証油の取扱いが伴う3つの方式とは異なり、認証油のクレジットが生産者と最終製品製造者・販売者との間でオンライン取引されるモデルで、グリーン電力類似の方式と言えます。これにより、認証油のサプライチェーンが未整備で調達困難な場合でも、認証生産者を直接的に支援することが可能になります。



3. サプライチェーンモデルの比較

複数あるサプライチェーンモデルの中で、トレーサビリティのより確かなIPもしくはSG方式を採用することが最も望まれますが、日本市場においてはサプライチェーンがまだ整っていない原材料が多くあります。そのような場合は、認証油の入手をサプライヤーに働きかけると共に、生産者を直接支援できるクレジットの購入も有効です。

なお、採用するモデルにより、使用できるロゴマークやそれに付記する表記などが異なりますので、以下を参照ください。

サプライチェーンモデル	IP アイデンティティ・ プリザード	SG セグレーション	MB マスバランス	B&C ブック・アンド・ クレーム
使用可能なロゴマーク				
表記(例)	認証された持続可能なパーム油が含まれています	認証された持続可能なパーム油が含まれています	認証された持続可能なパーム油の生産に貢献しています	認証された持続可能なパーム油の生産を支持しています
トレーサビリティ	◎	○	△	×
認証油購入費用	¥¥¥¥	¥¥¥	¥¥	¥
会員要件	RSPO 正会員および準会員			

※ルール詳細は「RSPOマーケットコミュニケーションと主張に関する規則(RSPO Rules on Market Communications & Claims)」を参照ください

※認証油購入費用とは別に、サプライチェーン認証の取得が別途必要となる場合があります。認証取得費用については、認証機関にお問合せください(データ集参照)

IV 持続可能な世界を目指して

1. 世界的な動き

12 つくる責任
つかう責任



世界の森林は減少を続けています。私たちは今、持続可能な調達への転換スピードを加速させなければならない局面にきており、世界中でさまざまな取組が生まれています。

21世紀の国際社会の新たな持続可能な開発目標SDGs(Sustainable Development Goals)が2015年9月25日、国連総会「持続可能な開発に関するサミット」で採択されました。2030年までに世界が達成すべき17の目標と169のターゲットが設定されており、持続可能なパーム油の生産・調達は多くの多くに関わりますが、特に目標12、15に直結する取組です。

15 陸の豊かさも
守ろう

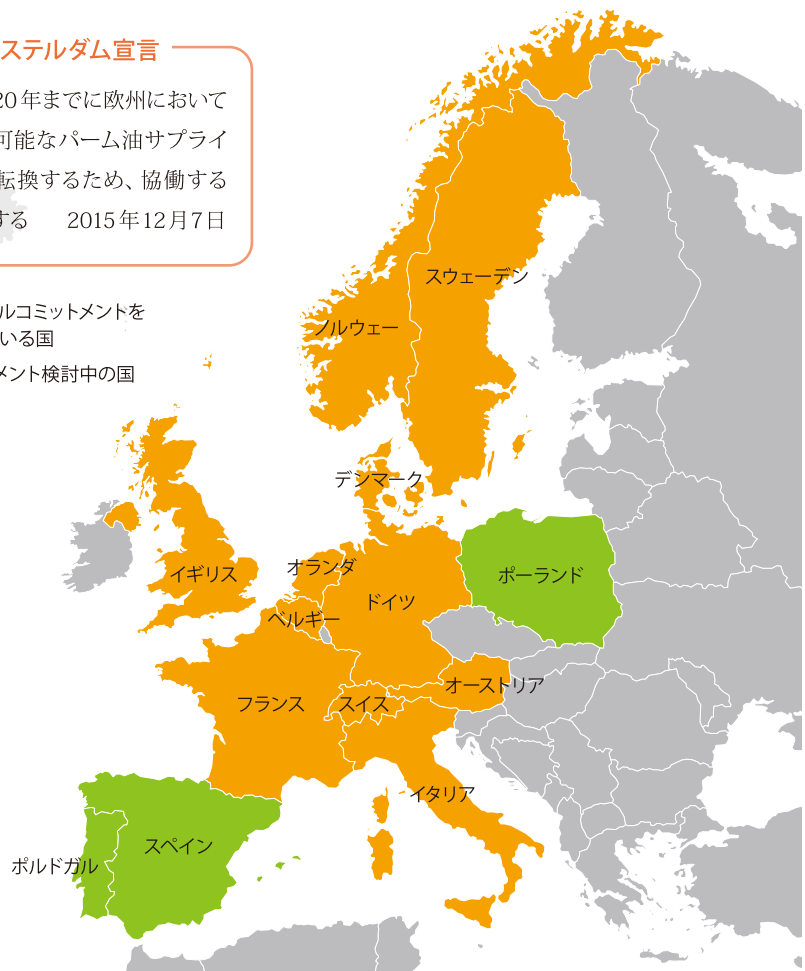


続けて2015年12月、ヨーロッパ各国で政府や業界団体が動き出したことが後押しとなり、ヨーロッパ全体で持続可能なパーム油100%への転換を目指すため「アムステルダム宣言」が採択されました。

アムステルダム宣言

我々は、2020年までに欧州において100%持続可能なパーム油サプライチェーンへ転換するため、協働することを宣言する 2015年12月7日

- ナショナルコミットメントを発表している国
- コミットメント検討中の国



※2016年末時点

こうした動きはヨーロッパだけではなく、中国、インドにおいても産業界を中心に対応の模索が始まっています。また、消費国だけではなく生産国であるマレーシア・サバ州、アメリカ7カ国(マラケシュ宣言：中央アフリカ、ガーナ、リベリアなど)、中南米でも政府単位での持続可能な生産への取組が始まろうとしています。

🔥 国別RSPO加盟数推移

	2012	2013	2014	2015	2016
イギリス	106	131	200	330	378
ドイツ	97	147	208	279	372
アメリカ	46	70	89	138	200
オランダ	69	92	119	146	191
イタリア	0	29	52	113	158
フランス	73	86	106	127	143
マレーシア	87	95	117	109	128
インドネシア	70	88	109	103	115
オーストラリア	0	0	53	80	114
ベルギー	24	44	62	89	106
日本	23	26	29	37	51
その他	243	370	487	731	985
合計	838	1,178	1,631	2,282	2,941

2. 企業がRSPOに参加する意義



RSPO 認証を取得したパーム油が初めて取り引きされたのは2008年。認証制度としてはまだ若く、改善すべき点も指摘されています。しかし、多様なステークホルダーが問題点を指摘しながら、改善を続けることに意味があります。持続可能なパーム油を調達するためには複数の選択肢があり、RSPOはその1つです。それでも、RSPO加盟数は増加を続けており、世界共通の国際認証制度へと発展しています。それでは、企業はなぜRSPOに参加するのでしょうか。

リスクへの対応：近年パーム油の生産に伴う環境面・社会面での多くの問題は、解決されるべき世界的な課題であり消費側である利用企業にもその責任があると考えられています。その中で、日本企業が何の配慮も無く調達をしている、もしくはサプライチェーン上の問題の有無を把握しないまま調達をしているということだけで、ブランドへのリスクが生じかねません。

国際競争の基礎：日本の人口は今後減少していくことが予測されており、企業は今後更に海外展開の可能性が大きくなります。海外市場で競争をするためには、国際認証制度の導入が必要不可欠となります。また2020年のオリンピックに向け、日本企業の調達が注目を浴びることは間違いなく、特に海外の目は厳しいものとなっています。

小規模農家の支援：パーム油はプランテーションだけで生産されているのではなく、生産量の4割近くを家族経営などの小規模農家が支えていると言われています。しかし知識不足や経済的な理由から、生産現場の問題が多々指摘されています。RSPOは小規模農家支援プログラムを、また企業とNGOが連携し認証取得支援も実施しています。B&Cの購入も生産者への直接支援を目的としたシステムです。

パーム油の使用量が少量であるということは、この問題を黙殺する理由にはなりません。パーム油が他の植物油と比べて安い理由の一端には、生産現場にのみ負わされた環境面・社会面での「負の影響」があります。

消費国である日本をはじめとした国々が持続可能な調達をすることが、パーム油の持続可能な生産に繋がります。2020年、2030年に向け、皆さまと力を合わせながら取組を加速させていきたいと考えています。

RSPO in numbers

2004

設立2004年

+3,300

RSPO加盟団体数



+11,000,000

世界の認証パーム油
生産量(トン)

+2,500,000

世界の認証農園
面積(ha)



私たちはWWFです
人と自然が調和して生きられる未来を目指して、地球環境の
悪化をくい止めるさまざまな活動を実践しています。

www.wwf.or.jp

WWF ジャパン (公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン)

〒105-0014 東京都港区芝3-1-14 日本生命赤羽橋ビル6F

TEL:03-3769-1711 FAX:03-3769-1717